

蔵王で白い青春を60回生スキー修学旅行

1月29日(月)から2月2日(金)まで、山形県の蔵王にて、60回生の修学旅行が行われた。天候にも恵まれ心に残る5日となった。(60回生共同取材)

1日目

1月29日(月)〜2月2日(金)にかけて、山形県蔵王にて60回生の修学旅行が行われた。1日目に最初に向かったのは蔵王体育館。入り口ではインストラクターさん方が拍手で迎えてくださった。体育館では開校式が行われ、部長を務めた串田昌也先生や蔵王ハイムスキースクール校長の岸宏さんからスキーに臨む60回生に向けての激励などが行われた。また、生徒代表の伊藤秀太郎さん(2I)は「修学旅行楽しみましょう!」と修学旅行への楽しみを語った。

2日目

修学旅行2日目は、翌日に控える全山ツアーに備えてスキーの実力を伸ばすため、午前と午後合わせて四時間半ものスキー講習が各班に分かれて行われた。

初心者の班は初めてリフトに乗って一日よりも長い距離を滑り、着実に実力を伸ばした。経験者班は何本かリフトを乗り継いで蔵王の雪景色を楽しみながら、より高度な技術の習得を目指した。講習後の宿では疲れた様子の生徒も見られたが、思っていたよりも楽しめたという声も多く聞かれた。

3日目

修学旅行3日目は全山ツアーに赴いた。なれない板さばきも徐々に慣れ、リフトやケーブルカーを乗り継ぎ山頂を目指した。標高1300m付近にまで上ると奥羽山脈の峰々が堪能できた。そこから

緩急様々なコースを下り、山中のレストランやおしゃれなカフェに寄りながら、インストラクターさん達との交流を深めることができた。今年雪が少なく樹氷もそこまで成長していなかったが、1日目からの日本晴れが続き、雪のコンディションもよく滑りやすかった。

閉校式の最後には、インストラクター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インストラクターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインストラクターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。今回初めてスキーをしたというAさんは「今までスキーの経験がなかったので、とても緊張していたのですが、インストラクターさんの指導もあって、本当に楽しかったです。また機会があればスキーに行きたいです」と笑顔で話してくれました。

閉校式の最後には、インストラクター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インストラクターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインストラクターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。今回初めてスキーをしたというAさんは「今までスキーの経験がなかったので、とても緊張していたのですが、インストラクターさんの指導もあって、本当に楽しかったです。また機会があればスキーに行きたいです」と笑顔で話してくれました。

閉校式の最後には、インストラクター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インストラクターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインストラクターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。今回初めてスキーをしたというAさんは「今までスキーの経験がなかったので、とても緊張していたのですが、インストラクターさんの指導もあって、本当に楽しかったです。また機会があればスキーに行きたいです」と笑顔で話してくれました。

閉校式の最後には、インストラクター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インストラクターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインストラクターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。今回初めてスキーをしたというAさんは「今までスキーの経験がなかったので、とても緊張していたのですが、インストラクターさんの指導もあって、本当に楽しかったです。また機会があればスキーに行きたいです」と笑顔で話してくれました。

閉校式の最後には、インストラクター一人一人には記念品としてタンブラーが贈られ、インストラクターからは蔵王の記念シールのプレゼントが渡された。会場はインストラクターとの別れを惜しむ生徒で埋め尽くされていた。今回初めてスキーをしたというAさんは「今までスキーの経験がなかったので、とても緊張していたのですが、インストラクターさんの指導もあって、本当に楽しかったです。また機会があればスキーに行きたいです」と笑顔で話してくれました。

5日目

コース別体験学習

味噌づくり

D・H・K・L組は味噌づくりを体験した。生徒一人一人に味噌を作るための材料やバケツ、手順書などが配布され、講師の方の説明に従いながら作業を進める。

途中の講師の方の話で、上手に作れば約一万円もの価値のある味噌が出来る聞き、一万円のお土産を持つて帰ろうと、さらに丁寧に味噌を作ろうとする生徒たちの様子が見られた。



丹精込めて味噌づくり

陶芸体験

A・B・F・G・I・J組の6クラスは陶芸体験を行った。作ったのは平清水焼という山形県伝統の焼き物だ。湯のみやお皿など様々なものを自由に作ることができる。

一人一つのひらサイズの粘土が渡され、講師の先生を手本としながら思い思いの形を作っていく。お皿の淵の形を作る際、無理やり手の力を使うのではなく少しずつ力加えることでお皿の厚さを均等にすることがよく見られた。



集中して作る(学校HPから引用)

最後に、お皿の表面に日付を書いたり、模様を描いたりすると、世界に一つしかない平清水焼を製作していた。

和菓子作り

C・E組は和菓子作り体験。あんこは白や黄色、紫などがあり、水仙と菊の練り切りは全員共通で制作し、余ったあんこで好きなものを作った。

実際に体験したBさんは「あんこは粘土と似ており乾きやすいと言われ、いちいち水の布巾で手を濡らしてからあんこに触るのが楽しかったです」と話す。また、職人さんが実際に使うような道具を使ったという「技法などがすごかったです」と興奮した様子で体験を振り返った。

4日目

レク

季節の里に宿泊したA・I組は、各ホームルーム委員を中心に合同でクラスレクを行った。レクの内容はクイズ大会。クイズニクイズや名前ランキングなど様々なクイズで盛り上がった。特に、先生クイズは大盛り上がり。

ホームルーム委員が作った質問をその場で先生が答えるという形式で、先生の初恋の人の部活や、初デートの場所など、普段は聞くことのできない先生の一面を、クイズを通して知ることができた。最後には、全員に参加賞としてお菓子が配られ、クラスの壁を越えて楽しむことができた。



一面の雪景色が広がる中で、スキーを楽しむ60回生



ランドセルを背負ってダンス!



賞品をかけた運命のじゃんけん



会を盛り上げる熱唱

卒業おめでとうございます! 卒祝会 graffiti

勝利の熱い抱擁!!

3年生の大合唱



「フ口なんで」成功しました



卒業証書